

第5回分科会活動報告

日 時：2013年12月8日（木）

場 所：[第一部] 日本近代文学館・東京大学 駒場キャンパス, [第二部] 青山学院大学 青山キャンパス

出席者：37名（内訳：正会員23名、賛助会員他：14名）

記録者：日本大学理工学部 恵藤 浩朗（第一分科会運営委員長）

テーマ：施設設備を活かす！－最新教育環境の活用と整備－

1. 研究活動内容

[第一部]

(1) ご講演

テーマ：「アクティブラーニングのための学習環境と実施支援」

講演者：東京大学 教養学部 附属教養教育高度化機構 アクティブラーニング部門 駒場アクティブラーニングスタジオ（KALS） 特任助教 中澤氏

午前の部では最近色々と教育現場でワードとして取り上げられるアクティブラーニングについて、その概要と実際に東京大学でアクティブラーニングのために整備したスタジオについてご講演いただきました。アクティブラーニングは

（広義）様々な形態があり、ただ座って聴くだけの学び以外はすべて。

（狭義）学生は学習に動的に参加し、分析や評価といった高次思考を伴う課題に取り組む。

といったことがありますが、特に東京大学では学修プロセスに着目して狭義の意味での取り組みを実施しているとのことでした。そのためにはアクティブラーニングを促す学習環境が必要であろうということで整備されたのがKALSとなります。このような学習環境の整備は海外では多くみられ、レンセラー工科大学、



ノースカロライナ州立大学、MIT（TEALなど）、スタンフォード大学、マギル大学などが主に実施しており、マギル大学で面白かったのは様々なアクティブラーニング教室を整備しており、それら学習環境整備に関して、こうあるべきという「デザイン原則」が決められており、そのデザイン原則に基づき一般教室も整備されているとのこと、どうしても基となるような原則を決めてからの整備を実施しているかというイエスとはなかなか答えにくい中で、とても参考になりました。東京大学の駒場キャンパスは特に1年生が一般教養を学びにくるキャンパスで、そこで「理想の教養教育の追求」、「理想の教育棟」を整備しようといった背景からKALSは作られたそうです。通常教室と異なる設備としてスタジオ型の教室（自由に稼働できる机と椅子）、プロジェクタ（4面、ワイヤレス投影、グループごとに提示）、タブレットPC（40台）、iPad（40台）、無線LAN、クリッカー、電子黒板（予備のプロジェクタースクリーンとしても活用）、ホワイトボード（手持ちおサイズA1）、ウェイティングルーム（前室のようなもの）、電源（床より）が常設されており、運

用する上では、はじめ：設備の説明，相談，打ち合わせ，授業前：レイアウトなど学習環境の設定・・・機材準備（学生）

授業中：機材の操作支援，トラブル対応，操作支援（学生），授業後：次回の打合せ，片付け（学生）（※（学生）は学生アルバイトによる作業）といった形で運用されており，かなり様々な形態の講義を実施しようと思ってもそれに対応し得る状況を整えていると感じました．この教室はリピータも多く，事務スタッフがおらず一人で切り盛りされている中澤先生はお忙しそうに感じました．

(2) 施設見学

講演内容を受けて東京大学駒場アクティブラーニングスタジオ（KALS）の施設見学を実施いたしました．まず設置されていた机は良いと思いました．十分な広さ，移動してのグループの作りやすさなど，いいですね．あとは周囲のガラスは開放感を感じさせつつ，通電すると目隠しになるもので，状況に応じた対応ができるのが良い．また細かい所ですが一番良いなと思ったのが，手持ちできる程度の A1 位でしょうか，ホワイトボードです．またそれが簡単に壁に引っかけられる形になっていて，グループで書き込んだ後，壁にかけてプレゼンもできる，そういった代物でした．欲しいと思いましたが，メーカーまで分かりませんでした．何にしてもとても整備された教室で，ここまで整備されてしまっているとあとはそれを活かしかれる教員を育ててはいけないと感じるほど整っていました．「是非，ここで講義してみたい」と思いもしましたが 40 名だけだとちょっと人数的に厳しいという所も感じました．

[第二部]

(1) ご講演

テーマ：「青山学院大学における ICT を活用した教育学習支援に関する戦略ー情報メディアセンターの設立と今後の展開ー」

講演者：青山学院大学 附属情報メディアセンター 所長・社会情報学部教授 宮川氏

青山学院大学では情報メディアセンターが整備されましたが，設立にあたり 3 年ほどかけて

検討がなされたようで，ICT をうまく活用した教育を実践するに当たり，センター教員を 3 名から 11 名へと大幅に増員したとのことでした．そして ICT 活用の教育を創造する教育研究支援プロジェクトとして教育学修支援も実施されており，本当にうらやましい限りです．取組みも様々で LMS（富士通：コースパワーを活用）に授業映像を公開したり（メディアサ



イトのシステムと連携)，100 名を超える学生に対応した遠隔授業も実践されたり，窓口がワンストップサービスであったり，学生に対しては情報基礎教育として青山スタンダードを定めているなどどれも頭ではこうなるといいなと分かっているものの，なかなかこの規模で実現できていないものが実現されていました．凄いですね．何より，つい新しいもの，また技術を見て各種システム，施設，設備を導入しがちですが，青山学院大学の整備の仕方は良く利用者のニーズを把握してデザインされて導入されているなど感じました．これ

はっきりとしたポリシーがと思って講演を伺っていたら最後に宮川先生より青山学院の情報システムポリシーが示され

- ・ 可用性, 安全性, 安定性, 経済性 (TCO)
- ・ 公共性の高いインフラを構築
- ・ 高い教育効果と創造的環境を適用するポリシー
- ・ 効果的かつ安定的に業務を遂行するためのポリシー (利用者, 提供側双方の手間もコストとして考える)

とのことで, これらが教員, 職員がうまく役割分担をしつつ互いに協同し, 連携しながら動いているということを伺いました。

(2) 意見交換会

テーマ: 「将来的に望まれる学習環境のデザイン原則」(協同学習)

今回も難しいテーマではありますが, ワールドカフェ形式のグループワークを実施いたしました。テーマは「将来的に望まれる学習環境のデザイン原則」。そこで第4回の協同学習で学んだ手法をもとに, まず個人思考の時間を取り, 次にペアで思考した内容を共有, 議論。次に4名のグループで, また再度共有と議論といった



形のグループワークを実施いたしました。施設・設備として将来何が望まれ, どうあるべきなのかといったことについて考えていただく取組みを行い, 参加者の皆様には, 最後にグループごとに話し合った内容を発表していただきましたが, 多くのグループであった意見をご紹介しますと規模の自由度, 動きやすさ, 使いやすさ, 調べやすさなどが多く挙がり「自由度と情報収集のしやすさ」といった所が求められているのかなと感じました。

(3) 施設見学

青山学院のアスタジオを先ず見学し, 学生達が各種メディアを自由に活用し, 実際のスタジオなども活用しながら学べる環境を実際に見せていただきました。また本多記念国際会議場, スチューデントセンターなども見学し, 本多記念国際会議場などは大画面のリアプロジェクター, 562席, 同時通訳用ブースなどがありました。またCALL教室ではチェルの授業支援システムの見学も実演込みで実施していただきまして, 本当に盛りだくさんの施設見学となりました。

2. まとめ

最後の最後までなかなか密度の濃い分科会を実施した第一分科会, 最終回は1日のみの開催であるにも関わらず, 午前の部, 午後の部という2部構成で午前中に東京大学, 午後に青山学院大学という強行スケジュールで実施いたしました。それにも拘わらず, 約40名弱の方にご参加いただきまして本当にありがとうございました。長丁場の分科会でしたが時間が足りないほどの盛り沢山の内容で成功裏に終えることができました。これもご参加いただきました皆様のおかげです。ありがとうございました。

以上